

令和5年度  
WAM助成シンポジウム

こどもまんなか社会  
の実現を目指して

～地域を巻き込むNPOの在り方～

9月26日(火)13:00～16:00

●LIVE動画配信●

●参加無料●

対象:こども関連施策に興味のある方、  
NPOの活動に興味がある方など  
どなたでもご参加いただけます!




主催: 独立行政法人  
福祉医療機構 (WAM)

後援: 厚生労働省  
こども家庭庁

★お問合せ★

独立行政法人福祉医療機構  
NPOリソースセンター  
NPO振興課  
TEL:03-3438-9942

WAMホームページまた  
は QRコードからお申込  
みください。

WAM助成 



読み取れない場合は  
WAMホームページ  
からお申込みくださ  
い。

タイムスケジュール

開会 13:00

13:05～13:35 基調講演 こども家庭庁  
「こども家庭庁の役割とNPO等民間組織の意義(仮題)」

13:35～14:25 成果報告① 特非)サンカクシャ  
「こどもの孤立を防ぐ居場所を起点とした地域連携の包括的支援事業の  
取組」

休憩 14:25～14:30

14:30～15:20 成果報告② 特非)ピアサポートF.A. cafe  
「食物アレルギーをこども同士で支え合う事業の取組」

休憩 15:20～15:30

15:30～16:00 質疑応答/まとめ

閉会 16:00



児童虐待相談や不登校の件数が過去最多となるなど、子どもを取り巻く状況は深刻で、コロナ禍がより一層拍車をかけています。常に子どもの最善の利益を第一に考え、子どもに関する取組や政策を我が国社会のまんなかに据えて、強力に進めていくことが急務となっています。

こうした課題に対応するため、子ども家庭庁の設置や、子ども施策を社会全体で総合的かつ強力に実施していくための包括的な基本法として子ども基本法が制定されました。

本シンポジウムでは、子ども家庭庁の子ども施策の動向を探りつつ、子どもや若者の声を聴き、子どもを中心とした支援を行っているNPO団体の活動事例の紹介により、地域でいかにして子どもまんなか社会を実現していくか、NPOや行政、地域住民の役割は何かを考えていきます。

## ～基調講演～



### 宮崎千晶氏 子ども家庭庁支援局家庭福祉課企画官・ひとり親家庭等支援室長

【プロフィール】

岐阜県出身。2001年4月に厚生労働省に入省。これまで、雇用保険法の改正、企業年金関係法改正の施行、外国人技能実習制度の運用・見直しなどに従事。また環境省（産業廃棄物）、総務省（地方公務員制度）、石川県庁、大阪労働局での勤務も経験。2023年7月より現職。

## ～成果報告～

### ●ファシリテーター



### 鍋木奈津子氏 上智大学総合人間科学部社会福祉学科准教授

【プロフィール】

上智大学卒業後、医療ソーシャルワーカーとして勤務し、大学院進学。博士号(社会福祉学)取得。日本学術振興会特別研究員を経て2014年より厚生労働省にて自立支援企画調整官、包括的支援体制整備推進官として勤務。2021年より現職。生活困窮者自立支援全国ネットワーク研修・研究委員、社会福祉士国家試験委員。2013年日本社会福祉学会奨励賞。

### ●特定非営利活動法人サンカクシャ

子どもの孤立を防ぐ居場所を起点とした地域連携の包括的支援事業（R3WAM助成モデル事業）



### 荒井佑介氏

【プロフィール】

特定非営利活動法人サンカクシャ代表理事。1989年埼玉県出身。

大学生時代からホームレス支援や子どもの貧困問題に関わり始める。

生活保護世帯を対象とする中学3年生の学習支援に長く関わっていたが、高校進学後に、中退、妊娠出産、進路就職でつまずく子達を多く見たことから、特定非営利活動法人サンカクシャを立ち上げる。

### ●特定非営利活動法人ピアサポートF.A. cafe

食物アレルギーを子ども同士で支えあう事業（R4WAM助成事業）



### 服部佳苗氏

【プロフィール】

約20年前、子ども二人が生後間もなく重篤なアレルギーと診断されたことがきっかけで食物アレルギーの啓発活動を始め。厚生労働省アレルギー疾患対策推進協議会、消費者庁外食等におけるアレルゲン情報の提供の在り方検討会等で委員を務めた。現在は行政の消費生活相談員として、アレルギー患者のみならず広く消費者の相談にあっている。



～WAM助成に興味を持っていただけの方へ～

X (Twitter)、Facebookにて、NPOの活動や福祉活動に関するお役立ち情報など、随時更新しています。

ぜひ、ご覧ください！《アカウント名：WAM助成》